

# やまと 民俗への招待

鹿谷 熊

法華寺のカラブロの前に、法隆寺のカラブロを調べたことがある。1991(平成3)年10月のことだったが、前年11月ごろまで実際に焚かれていたという。場所は法隆寺西円堂の北西約100㍍の境内に接する場所で、ウォーナー碑から少し北側の地だつた。

建物はかなり傷んでおり、薪小屋、カラブロ、座敷からなり、木造平屋建て、棟瓦葺きで南北一列に並んでいた。カラブロ部分は、桁行7間・梁間4間で、土間と浴室部と休憩部屋に分かれていた。

浴室部は、湯を焚き蒸気を起こす釜場と男女別に分かれたコンクリート製の浴室と洗い場に分かれていた。釜場には釜が二つ据えられ、一方は



法隆寺のカラブロ。手前から薪小屋、カラブロ、座敷と続く=1991年10月撮影、筆者提供

## 法隆寺にもカラブロ

蒸気発生用の大釜で、釜の上部から鉄のパイプ2本が上に伸び、蒸気を直接に浴室の内部に送る仕組みだった。もう一つの釜は湯沸かし用の釜で、太い煙突も1本立っていた。浴室の外壁には、昭和11年6月に作られたことが関係者の名前とともに記されていた。おそらくなこの時、浴室がコンクリート造りに改修されたのだろうが、以前の姿は不明である。

浴室は家形で、内部は男女2室に分かれていた。一部屋の広さは、幅と奥行きそれぞれ1・4㍍足らずのほぼ正方形で、高さは一番高い所で2㍍ほど。釜場側の壁の高い所には、蒸気の出てくる穴があり、入り口から入って両側には低い腰掛け用の板が設けられ、男女それぞれ6人ずつが入れるようにになっている。出入り口は高さ90㌢、幅50㌢ほど。外は洗い場で、温水と冷水の両方が用意されていた。

休憩用の部屋などには、料金徴収用の木箱や吊り下げたままの手拭い、座布団や仮眠用の布団や枕、火鉢や薬罐や湯呑み、近くの風呂屋からもらってきた脱衣

箱などが、あちこちに残つたままになっていた。奥の座敷には、風呂の維持費として神戸の人が贈った「金五百円」と墨書きされた寄せ札も貼り付けてあった。

このカラブロは、「薬師空風呂」、「峯薬師御夢想湯」などと呼ばれてきた。管理と運営は、薬師講(薬師念佛講)が行つてきた。

法隆寺西円堂は「峯の薬師」として広く庶民の信仰を集めてきたが、地元の西里の人々を中心にしてカラブロが営まれてきた。3日ごとまた5日ごとに焚かれたが、斑鳩町内に風呂付きの保養施設が新たにできて、その役目を終えた。

(奈良民俗文化研究所代表)  
次回は9月2日